

夢の設計図

やりたい仕事や実現したい夢 **国家公務員** その仕事や夢を選んだ理由 **国民や災害を受けやすい日本を
守りたい**

その仕事や夢を実現するために必要な条件(資格など)や力、お金はなんだろう
国家公務員総合職試験に受かるための学力
英語や中国語の語学・学費・しゅく代

年齢	必要な能力を身につけるためにやること
12歳	小学校 合宿などでチームワークを学ぶ、日本各地の郷土資料館へ行く、英検と中国語検定への勉強
13歳	中学校 中学校入学全ての教科が得意になるように勉強
15歳	英検2級まで取得
16歳	高校 高校入学、日本史や地理などの勉強をかいはる
18歳	英検1級まで取得、受験勉強
19歳	大学 東京大学入学、短期留学もする
22歳	法学部にて勉強、国家公務員総合職試験の勉強
23歳	仕事 国家公務員総合職試験に合格!
25歳	国土交通省に入省
35歳	上司について、仕事を学ぶ
40歳	災害が起きそうなところを整えていく 部下を持ちリーダーとして災害から守るために、日本の未来を

仕事以外であなたが大人になったらやってみたいこと、実現したいこと
恐竜博士になることも夢なので、恐竜博物館や化石発掘
などはまたつづけたい。

日本を災害から救え

筑波大学附属小学校 四年 長谷川 晴一

「玉川兄弟は、江戸の人々を助けたんだよ。」

ぼくは、学校の社会の授業で習った東京の水について勉強するために、東京都水道歴史館へ行った。

そこで感動したのは、玉川兄弟の話だ。彼らは、江戸市中の飲料水不足を解消するために江戸ばく府の命で水量が豊富な玉川の水を江戸までひくことに成功した兄弟だ。また、岐阜にある輪中という集落の勉強をした時、さつま藩の活やくを知った。昔から輪中地帯に住む人々は、水害になやまされている。今でこそ、水害から守る工夫が多くあるけれど、いつ、水害から村を守る堤防、水屋などのアイデアが生まれたのだろうか。それは、江戸時代に、さつま藩が木曾三川の治水工事を多くのぎせい者を出しながらも行ってくれた時だ。機械もない時代だし、強い信念がないとできないと思う。ぼくは、このように、国の人々のために働ける人

になりたいと思った。

そもそも日本は、地しん、火山活動が活発であり、山が多く、川も短く急である。梅雨と台風の時期に集中ごう雨も多い災害大国である。災害が起きた時、現代は、内閣府が計画を立てたりさまざまな機関との調整を図り、防衛省は、ひ災者の救助や物資の輸送などの活動、国土交通省は、ほくも行ったことのある世界最大級の地下河川である首都圏外郭放水路などを作り、防災、減災に取り組んでいる。ぼくがあこがれる彼らは、国家公務員だ。特にぼくが勤めたいのは、国土を守るために、将来に対し課題を探し続ける国土交通省だ。

その夢を実現させるためには、大学に入学し国家公務員総合職試験に合格しなければならぬ。総合的に勉強しなければいけないので、苦手を科目を作ってはいけない。さらに、日本のことだけでなく世界を知るために、留学もしたい。な

んとぼくは、6才から英語と中国語を勉強している。ぼくの両親は旅行に行くたびに郷土資料館に連れていってくれる。その中でも渋沢栄一の人生がぼくの目標になった。渋沢栄一は実業家として有名だが、官りようとして国のために働いていた時代がある。西洋に比べ、おくれをとっていた日本のために、日本の近代化をリードして、日本の産業界のきそを作った。なんと彼は、フランス留学した時、その場でちょんまげを切った。きつと、日本をよくしたいという決意の表れだったのだろう。

ほくも国内外問わず、広く知しきを学び、日本の国民や国土を守る仕事につきたい。そして、渋沢栄一のように未来の国の発てんを考え、どうしたら災害を防げるか、どうしたら国民が安心してくらせる街づくりができるかなど国家公務員になって日本の未来のために活やくしたい。

*こちらは、小学生『夢をかなえる』作文コンクールの「ライフプランシート」としても使えます。